

普及活動情勢報告（令和4年1月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

農業で生活する事に夢を託して！ ～新規就農相談会～



品目や規模などを相談する参加者

1月5日、JA高知県四万十支所で新規就農相談会が開催されました。四万十町での就農を希望する2組4名が参加し、普及所、JA高知県四万十営農経済センター、四万十町農林水産課の職員が就農相談に対応しました。

参加者の1人は、農業者に雇用された経験があり、自分で経営を始めたいと熱意を込めて話していました。

普及所は、新規就農に向けた補助事業等による就農支援や、栽培技術の習得を支援していきます。

集落の農地を守り続けていくために ～農事組合法人米奥設立総会～



議事を説明している様子

1月9日、米奥集会所で組合員19名、関係機関6名が参加し、「農事組合法人米奥」の設立総会が開催されました。

当普及所管内では10番目の法人設立となり、組合員数26名の法人が新たな担い手となって、ほ場整備した農地を集積し、水稻とショウガの規模拡大を図っていく予定です。

普及所は、法人の経営安定に向けて、栽培指導や経営管理の支援を行っていきます。

良い土壌をつくるために！ ～新規就農者基礎研修会（土づくりの基礎知識）～



ワークショップの様子

1月18日、普及所で新規就農者を対象に、土壌の基礎知識に関する講義とワークショップを行いました。

講義では普及所が、‘良い土の条件’や‘肥料の種類’などについて説明し、ワークショップでは、参加者が自分のほ場から持参した土壌のpH・ECを測定しました。

参加者からは、「就農3年目になったが、土づくりに関する用語をだんだん理解できるようになった。」や「自分の土壌の状態が分かって良かった。」などの意見が出されました。

普及所は、今後も講習会の実施などを通じ、新規就農者を支援していきます。

「みんなで作った昔野菜、おいしいよ！！」 ～昭和小学校で昔野菜の食育活動を実施～	
	1月19日、四万十町「道の駅四万十とおわ」で、同町立昭和小学校3年生が栽培した、同町大道地区の伝統作物である昔野菜（カブ、ダイコン、高菜）の販売体験が行われました。 普及所は、平成28年度から農家や関係者と共に栽培や種取りを支援しています。昨年9月に種まきした昔野菜は、4年生も手伝って、児童9名が参加して前日に収穫しました。販売では、道の駅に来たお客さん達に「昔野菜、おいしいですよ。買って行って下さい！」と大きな声で売り込みし、30分ほどで完売することができました。 普及所は、今後も地域の農家や関係者と連携し、地域にある伝統作物の伝承活動や食育を支援していきます。

ナバナの生産安定に向けて ～根こぶ病対策講習会～	
	1月13日、JA高知県十和支所のなばな生産者に対し、根こぶ病対策について講習会を開催し、19名の参加がありました。 普及所からは昨年の試験結果を基に、土壌処理剤の施用効果について説明しました。今年の栽培では土壌処理剤を使用している生産者は1戸でしたが「薬剤処理の手応えは感じている」との発言があり、土壌処理剤の必要性について生産者同士で確認することができました。 普及所は土壌処理剤の継続的な使用を推進していくとともに、耕種的防除、物理的防除を組合せた根こぶ病対策を推進していきます。

自家増殖は許諾が必要 ～改正種苗法勉強会～	
	12月21日と1月6日に農協関係者などを対象に改正種苗法についての勉強会を開催し、延べ30名の参加がありました。 普及所からは、農業者に特に関わりの深い登録品種における自家増殖の許諾や、種苗販売時の表示方法について説明を行いました。 参加者からは「自家増殖した種苗のやりとりはだめなの？」「水稻箱苗への表示方法は？」などの質問が出され、それを皆で確認し改正内容の理解を深めました。 今後、普及所は農協の生産部会などでも説明会を開催し、改正点を周知します。